

新型コロナ及び原油価格・物価高騰対応支援枠
事業計画

事業名(主)	シングルマザー自立支援モデル形成事業
事業名(副) ※任意	緊急支援を通じて、自立の「土台」を作る

入力数 主 18 字 副 19 字

資金分配団体名	特定非営利活動法人シングルマザーズシスターフッド
---------	--------------------------

休眠預金事業への採択/申請歴	対象年度・事業		申請種別・状況
	例	2021年度(通常枠)	資金分配団体に採択
	1	2022年度(通常枠)	実行団体に採択
	2		
	3		
	4		

優先的に解決すべき社会の諸課題

領域	分野
1) 子ども及び若者の支援に係る活動	✓ 1)-①経済的困窮など、家庭内に課題を抱える子供の支援
	✓ 1)-②日常生活や成長に困難を抱える子どもと若者の育成支援
	✓ 1)-③社会的課題の解決を担う若者の能力開発支援
2) 日常生活又は社会生活を営む上での困難を有する者の支援に係る活動	✓ 2)-④働くことが困難な人への支援
	✓ 2)-⑤孤独・孤立や社会的差別の解消に向けた支援
	✓ 2)-⑥女性の経済的自立への支援
3) 地域社会における活力の低下その他の社会的に困難な状況に直面している地域の支援に係る活動	✓ 3)-⑦地域の働く場づくりの支援や地域活性化などの課題解決に向けた取組の支援
	3)-⑧安心・安全に暮らせるコミュニティづくりへの支援

上記以外 その他の解決すべき社会の課題	
------------------------	--

入力数 0 字

実施期間	2023年1月 ~ 2024年3月	事業対象地域	全国	事業対象者: (助成で見込む最終受益者)	心身の健康や収入面で、自立した生活に困難を抱えるシングルマザー(非婚、離別、死別を問わず)	事業対象者人数	【対象となりうる人数】 全国のシングルマザー 1,230,000人(※) 【事業の直接的な対象者】 2000人程度
------	-------------------	--------	----	-------------------------	---	---------	---

※厚生労働省調べ

I. 団体の社会的役割

(1)団体の目的
本団体は、ひとり親の女性に向けた心身のセルフケアの講座や女性のエンパワメントのプログラム、支援者向けの研修プログラムの開発・研究・普及を行います。 家族のあり方や生き方がますます多様化する現代において、困難な状況に陥りやすいひとり親の女性が、本来持つ力を発揮して、生きいきと暮らしていけること、その結果として、ひとり親家庭の子どもも社会から暖かく見守られながら健やかに育つこと、多様性が尊重され一人ひとりが自分らしく生きいきと暮らしていける社会づくりに寄与することを目的としています。
(2)団体の概要・事業内容等
本団体の主な事業は以下の3項目です。 1) シングルマザーのセルフケア講座事業 2) 女性のエンパワメント事業 3) 生き方の多様性に関する啓発事業 マイクロソフトの支援を受け、ITスキルやスピーチ、プレゼンのスキル習得を通して仲間と切磋琢磨する「ひとり親TECHエンパワメントプログラム」を開発、実施。トヨタ財団の研究助成を受け、ひとり親女性の心身の健康の研究にも取り組んでいます。

入力数 (1) 243 字 (2) 190 字

II. 事業の背景・社会課題

新型コロナウイルス感染症及び原油価格・物価高騰により深刻化した社会課題
長引くコロナ禍に続く物価高騰が、ひとり親家庭の生活を直撃しています。この6月にひとり親594人を対象に行われた調査(※)によれば、「物価上昇を実感している」は94.3%、「食費を減らしている」という家庭が74%にも及びました。 背景には、コロナ禍で収入が激減したケースが多いことがります。同調査で年収が「100万円以下」とした回答はコロナ前(2019年)の11%から23%に倍増しました。 ひとり親家庭は単純労働・非正規などコロナ禍の影響を受けやすい人が多くいます。そこに物価高騰が加わったことで、命をつなぐために必要な食費を削らざるを得ないような状況に置かれている人が増えています。 この状況を受けた「緊急支援」とは、どうあるべきなのでしょうか。 これまでの休眠預金・コロナ物価高緊急支援では「就労支援」が多く採択されています。しかし、 シングルマザーの8割は既に就労しており、「就労しているけれど低収入・収入不安定」なことが困窮状態を作り出しています。現状の就労支援の枠組みでは、その多くが対象から奪れ落ちてしまいます。 申請団体であるシングルマザーズシスターフッドは設立以来、こうした「就労しているけれど低収入・収入不安定」なシングルマザーの自立支援において、①食料・住環境支援などの緊急的な支援のうえで、キャリアアップに必要な②ヒューマンスキル(スピーチ・プレゼン力・計画管理能力など)の向上を目指す支援を行うことにより、困窮・混乱状態からの脱却を目指してきました。 実際、申請団体が開発した半年間のキャリアアップ・プログラム(ひとり親TECHエンパワメントプログラム)を2020年～2021年にかけて30人に行ったところ、 全員が収入増(転職/昇進/就職/起業など)を実現しました。 「半年間であっても、適切な支援によりシングルマザーの収入アップは可能」という仮説を実証できたことで、2022年からは北海道・神奈川などの地元支援団体と連携したプログラムの実施(コンテンツ提供や研修・実施支援を含む)を行い、ひとりでも多くの人にキャリアアップの機会を届けようとして取り組んでいます。 いまコロナ禍と物価高騰の影響を最も受けているひとり親への支援として、住宅や食料などの支援はとても重要です。しかし現状を顧みただけに、そこにとどまらず、その人の「生活の自立」までを目指した支援が求められているのではないのでしょうか。 コロナ禍においてリモートワークの日常化など、社会が大きく変化した今こそ、その変化に取り残されやすいひとり親に、こうした収入増につながるキャリアアップの支援は緊急性の高いものだと考えます。

※調査NPO法人グッドネーバース・ジャパン「ひとり親家庭を対象とした年収に関するアンケート調査」

入力数 999 字

(2)新型コロナ及び原油価格・物価高騰対応支援枠の助成申請に至った理由

長引くコロナ禍は、そもそも単純労働・非正規労働が多いひとり親の着しい収入低下につながり、そこに円安等による物価上昇が加わることで、命をつなぐために必要な食費も削らざるを得ないケースが増えています。こうしたケースへの緊急支援として、食料や住環境などの支援に留まらず、キャリアアップ(収入増)につながる支援を行うことで、いままさに命や生活の危険にある受益者の救援につながると考え、申請に至りました。

入力数 197 字

III. 事業

(1)事業の概要

この事業では、コロナ禍や物価高の影響で困窮するひとり親に対して以下の事業を行う団体へ助成を行います。物価高騰などの対策として食料支援や住環境支援など緊急的な生活保障を行うと共に、希望者に対してキャリアアップ(収入増)を目指した支援を行います。

- ① 緊急的な生活支援(食糧支援・居場所の提供・住環境支援など)
- ② ①の中で希望する対象者向けに、地域や対象者の特性に配慮したキャリアアップ・プログラムの実施

※事業は2つのフェーズに分かれます。

フェーズⅠ(3～4か月程度)…▼食料支援や住環境支援等の実施 ▼食料支援等の受益者からキャリアアップ・プログラムの参加者募集 ▼プログラムの実施準備(担当者研修の受講など)

フェーズⅡ(6か月程度)…▼食料支援や住環境支援を継続する ▼プログラムを希望者に対して実施する

※実行団体は、過去にひとり親に対して支援経験のある団体を想定します。

※収入アップに課題を抱える人の多い地方部(三大都市圏以外)の事業を歓迎します。

※食料支援などに関しては、地元フードバンクなどとの連携・共同事業も含みます。既に連携のある団体とのコンソーシアム申請も歓迎します。

※②について、自団体にてキャリアアップ支援コンテンツや実施経験を持たない場合には、資金分配団体による実施支援(注)を行います。

(注)実施支援の内容

▼キャリアアッププログラムのコンテンツ無料提供(e-learning教材・スライド・台本(スクリプト)など)

▼プログラム実施担当者向け、2か月程度(90分×6回)のオンライン対面研修の実施

▼PCや通信環境のない家庭に対するPC/wifi環境の貸し出しなど、個別の対象者の状況に合わせた支援実施のサポート

入力数 733 字

資金支援

(2)①活動(実行団体の活動想定)		時期		
①ひとり親(主にシングルマザー)に対する、キャリアアップ・プログラムの提供準備(参加者募集・研修受講など)		①2023年5月～2023年8月		
②ひとり親(主にシングルマザー)に対する、キャリアアップ・プログラムの提供		②2023年9月～2024年2月		
③ひとり親(主にシングルマザー)に対する、食品や生活必需品の提供など		③～⑤2023年5月～2024年2月		
④ひとり親(主にシングルマザー)に対する、住環境整備の提供		※①・②は必須。団体の意向や受益者のニーズにより③～⑤は選択可		
⑤ひとり親(主にシングルマザー)に対する、そのほかの緊急支援				
(2)②アウトプット(事業の実施により生み出された「結果」)				
実施・到達状況の目安とする指標	把握方法	目標値/目標状態	目標達成時期	
①食の乏乏など厳しい状況におかれたひとり親(主にシングルマザー)に食料や居場所の支援が行われる ②①のうち、希望する対象者に対して、キャリアアップ・プログラムが提供される ③キャリアアップ・プログラムを受講した対象者が、収入増を実現する	①実行団体からの報告を資金分配団体が取りまとめる ②実行団体が希望者数を集計し、資金分配団体が取りまとめる ③実行団体が、資金分配団体より提供されたアンケートフォームへの回答を受益者に求める。データは、一括して資金分配団体が取りまとめて分析を行う。	①食料支援であれば300世帯程度(実行団体の支援内容により個別に設定) ②実行団体の支援内容により個別に設定(①の支援者が300世帯であれば、うちe-learning受講者50人、キャリアアッププログラム受講5人など) ③プログラム受講者のうち50%以上が収入増を実現する	2024年3月	

非資金支援

(3)①活動(資金分配団体による伴走支援)		時期			
①緊急支援(食料配布、住環境整備など)に関するPM業務(事業進捗確認・アドバイス)		①②③④ともに			
②キャリアアッププログラムのプログラム・e-learningコンテンツの提供		2023年2月～2024年3月			
③キャリアアッププログラム担当者への研修・実施支援 ※必要な場合、担当者の採用支援		※②③についてはシングルマザーズシステムが、①④については構成団体であるREADYFORが主に行う			
④出口戦略支援(成果の測定と報告支援/ファンドレイズスキル向上・相談支援)					
(3)②アウトプット(事業の実施により生み出された「結果」)					
実施・到達状況の目安とする指標	把握方法	目標値/目標状態	目標達成時期		
①ひとり親支援において、食料支援や居場所支援などを行ってきた団体が、キャリアアッププログラムを提供できるケイバビリティ(団体成長の原動力となる強み)を得る ②実行団体が、自団体の事業継続化に向け、自団体の活動の評価・測定ができるようになる ③実行団体が、自団体の事業継続化に向けたファンドレイズの手段を得る	①-1 研修の受講状況 -2 プログラムの実施状況 ②実行団体のロジックモデル研修への参加状況、本事業に関するロジックモデルを作成している実行団体数 ③資金分配団体によるファンドレイズセミナーの受講(READYFORが実施するが、他クラファン実施会社の紹介や、クラファン以外の資金調達手法も紹介)	①-1 研修の受講状況 -2 資金分配団体が月次の面談を通じて実行団体より聞き取ってまとめる ②資金分配団体がロジックモデル研修を実施し、その後実行団体がロジックモデルを作成し提出してもらう。月次の面談時に進捗確認とともにロジックモデルの見直しなども行う。 ③資金分配団体によるセミナー実施後、団体側の参加状況及び資金調達実施意向をアンケートで取得する	①-1 研修を希望する実行団体の担当者が研修を受講する -2 実行団体すべてがプログラムを実施する ②・ロジックモデルを作成したことがない実行団体の担当者全員がロジックモデル研修を受講する ・実行団体全てがロジックモデルを作成する ③セミナーに団体の8割(10～12団体)が参加し、そのうち半分(5～6団体)が資金調達の実施意向を回答する	2024年3月	
(4)事業終了後に目標とする状態(短期アウトカム)					
実施・到達状況の目安とする指標(任意)	把握方法(任意)	目標値/目標状態(任意)	目標達成時期(任意)		
①キャリアアップ・プログラムを受けた対象者が、自尊心(「自信」「心の健康」など)を得て、自立への前向きな態度を持っている	①実行団体が、資金分配団体より提供されたアンケートフォーム(RSES-Jおよび収入についての質問票)への回答を受益者に求める。データは、一括して資金分配団体が取りまとめて分析を行う。	①プログラムの受講前後で調査を実施。自尊心尺度の点数(40点満点)において、受講者の平均値が1点以上上昇し、日本人の平均値(25点程度)に近づく	2024年3月		

※RSES-Jは全体で10問(1問あたり1～4点で評価)のアンケート型調査指標

IV. 実行団体の募集

(1)採択予定実行団体数	12～15団体	(2)1実行団体当たり助成金額	500万円～3000万円 (※団体のキャパシティに合わせ、例えば食料支援に必要な拠点の設置を希望する場合などに大規模な助成も可能にする。こうした意向がある団体の存在をヒアリングで確認済み)
(3)申請数確保に向けた工夫	<p>■資金分配団体であるシングルマザー・シスターフッドが所属するひとり親支援団体の全国協議会(シングルマザーサポート団体全国協議会)や、JWLI(日本女性リーダー育成支援Japanese Women's Leadership Initiative)を通じて全国の支援団体へ呼びかけを実施</p> <p>■構成団体であるREADYFORは、自社で提供するクラウドファンディングサービスにより、これまで2万件以上のプロジェクトを実施しており、そのなかには当該分野(ひとり親への食料・住居・キャリア支援)の団体が多く含まれる。また、自社で実施した新型コロナ対策基金、休眠預金活用事業による助成事業の中でも、当該分野の取り組みへの助成を実施している。こうした経験から、全国の幅広い団体への声かけが可能な体制を持つ。</p>		
(4)予定する審査方法(審査スケジュール、審査構成、留意点等)	<p>【審査方針】</p> <p>※第一次審査(書類審査) 応募団体が提出した事業計画書を基に、「(本事業の)目的との合致」「影響の広がり」「想定されるインパクト」「実現可能性」の4項目を基準として点数化して審査を行う。</p> <p>※第二次審査(面談・コンプラチェック・第三者確認・現地視察) 下記の①②③④の確認を経て、資金分配団体・構成団体の双方から複数の担当者による合議の元、20団体程度の候補を絞り込む。 ①団体への面談(オンライン及び現地調査)および団体毎にカスタマイズした質問状の送付により、団体の実績やプロジェクトの実現性、地域との連携体制などを確認 ②コンプラチェック READYFOR社内弁護士を中心とした審査チームにて、各団体の反社該当性・不祥事の有無のチェックを実施 ③事業を行う地域における団体の実績や連携体制について、当該地域で活動する別団体へのヒアリングや、「シングルマザーサポート団体全国協議会」との連携により確認を実施する。 ④③に加え、必要に応じて資金分配団体の審査担当者による現地視察・ヒアリングを実施する</p> <p>※第三次審査(諮問委員会による検討) ①ひとり親の心身の健康や自立支援研究の専門家を中心とした有識者(■■■■氏(東北大学)、■■■■氏(聖カタリナ大学)などを予定)および支援実務経験者などによる諮問委員会(4～6人程度)を組成。 ②諮問委員会の全員に対し、事務局の最終候補(20団体程度)について各団体の資料と共にリストを事前送付。そのうえで委員会を開催し、最終候補(15団体程度)を決定</p> <p>■審査スケジュールの予定(※2022年12月上旬採択内定の場合) 2022年12月～ 公募準備 / 2023年1月中旬～公募開始・書類審査開始(順次) →(以降、書類審査通過団体のみ)二次審査フォームの送付(申請事業や実行団体のより詳細な情報の提出) →面談(オンライン) / 2月中旬～一次選定団体のリストアップ→2月下旬外部有識者を含めた諮問委員会 →最終決定(2023年3月上旬を予定)→事業開始(最遅で2023年5月)</p>		

V. 事業実施体制

(1)メンバー構成と各メンバーの役割	<p>(コンソーシアム内の全メンバーで体制を記載。コンソーシアム内での業務分担は、別途提出の協定書案に記載。)</p> <p>幹事団体 : 計4名 構成団体 : 計21名(他業務との兼任) 外部有識者 : 計3名(予定)</p> <p>合計28名のチームで各ポジションを構成する予定。内訳・役割は以下の通り。 (「※兼任」は以下の役割の複数職務、または本事業以外の職務との兼任を示す。 「P」=ポジション、「幹事」「構成」=「幹事団体」「構成団体」の略称)</p> <p>【全体統括】・事業責任者 : 2P・2名(幹事1名/構成1名 ※兼任 両団体代表者) ・プロジェクトマネージャー : 5P・5名(幹事2名/構成3名 ※兼任 JANPIA様 窓口含む)</p> <p>【公募・選定】・公募3P/審査5P : 7P・6名(幹事1名/構成5名 ※兼任 計6名で分担) ・諮問委員会 : 6P・6名(外部有識者3名、内部委員3名※幹事/構成より1-2名ずつ参加 ※兼任)</p> <p>【団体伴走】・団体伴走チーム : 6P・6名(幹事2名/構成4名 ※兼任 PO4名含む計6名で分担) ※幹事: 専門領域支援、構成: 事業・精算管理・資金調達・基盤強化支援等の伴走</p> <p>【資金管理】・経理・会計チーム : 4P・4名(幹事1名/構成3名 ※兼任 計4名で分担) ※幹事: FDO経理、構成: FDO経理サポート・実行団体精算管理、構成団体経理</p> <p>【広報】・広報チーム : 2P・2名(幹事1名/構成1名 ※兼任 計2名で分担)</p> <p>【システム対応】・情報システム : 3P・3名(構成3名※兼任 計3名で担当)</p> <p>※担当が分かれていることや比較的多人数になる理由、およびコンソ団体の役割分担・情報共有の仕組みなどについては、別途送付のREADYFOR作成の補足資料も参照ください</p> <p>※構成団体のREADYFORは、本事業採択の際は、他休眠預金3事業(21年度新型コロナウイルス対応支援助成 3次・6次募集での採択2事業、同22年度事業2次募集での採択1事業)と並行実施となりますが、この事業が本格化する2023年3月には、前2事業は事業終了を迎えその担当者の稼働が可能となります。また、仮に本事業で採択内定となった場合、まずは部内の別担当メンバーを本担当として速やかに配置し、加えて採用・異動にて専任1名追加を行い、伴走体制の強化(人員確保)をして事業運営に臨みます。</p>
--------------------	---

<p>(2)他団体との連携体制</p>	<p>【コンソーシアムの構成について】 今回、コンソーシアムを形成する最大の意義は、非資金的支援(伴走支援)について、資金分配団体と構成団体それぞれの強みによりシナジーを生み出せる体制を構築することです。以下、体制に関する基本的な考え方を述べます。</p> <p>そもそも伴走支援(プログラム・オフィサー)の基本的な役割として、以下のものが指摘されています。</p> <p>①事業マネジメント(PM) ②事業への専門知見に基づく支援 ③資金と予算の監督 ④成果等の報告内容の作成支援 ⑤POに不足する知見・リソースに関して、外部との連携コーディネーター</p> <p>まず上記の①②③④⑤に関し、幹事団体・構成団体にそれぞれどのような強みがあるかを整理します。</p> <p>幹事団体であるシングルマザーズシスターフッドは、②事業への専門知見に基づく支援および⑤の外部との連携コーディネーターに強みを持ちます。自団体においてシングルマザーに対するキャリアアップ・プログラムの開発と実施実績があり、実際にシングルマザー30人に対するサービス提供を行い、参加者全員が6か月以内のキャリアアップを実現した。また全国の地方団体と連携した横展開事業も始めており、しんぐるまざあず・ふぉーらむ北海道(北海道)、NPO法人クローバーの会@やまがた(山形)、よこすかひとり親サポーターズ・ひまわり(神奈川)など5団体に教材提供と担当者研修を実施。2022年9月の最終発表会をもって5団体それぞれの地域での実施が終了しました。こうした横展開を含む過去の実績により、地域団体の実情に応じた専門的伴走支援の学びを蓄積しています。事業の実施に当たり、それぞれの団体の実情に寄り添った伴走支援の実施につながります。</p> <p>構成団体であるREADYFORは、①③④について強みを持ちます。重要なのが①です。毎月の面談において事業進捗を担当する専従POが、独自に開発した団体向け事業進捗共有シートを用い、リアルタイムで進捗状態を把握しています。月次の面談では、一方的に解決策を提案するのではなく、団体側が自分自身の内発的な動機や状況に合った対策を取れるように寄り添うことを第一に心がけています。また、相談範囲を当該の事業だけに限定せず、団体の規程類の整備や今後の事業展開に関する幅広い相談にも応じるよう心がけています。この結果、2020年度の緊急事業では2団体が事業期間中に任意団体→法人格の取得を実現し、事業終了後の活動継続の基盤を得てもらうことができました。</p> <p>③について、心がけているのが団体側の経理ご担当者が、休眠預金における経理処理の決まりにスムーズに適應できる環境を整えることです。事業開始前ガイダンスの実施や、チュートリアル動画の共有などを実施し、「経理担当者が事業期間中に急に変わっても引継ぎがスムーズにできた」といったお声を頂いています。また独自に作成した経理確認シートの使用や、証憑類をまとめて登録できる共有フォルダの作成など、小さなことでも必要ない事務負担が減るように、という視点で改善を続けています。そして問い合わせへの対応についても、過去に複数事業を実施した経験を活かし、過去の問い合わせ事例をデータベース化し、問い合わせがあった場合に同様な事例を検索して即時に回答できる仕組みを作るなど、団体目線での改善の努力を進めています。</p> <p>④について力を入れているのが、成果測定に関する取り組みです。2021年度の緊急枠「若者の就労支援」では、READYFOR社主催でロジックモデル研修を実施。座学に加え、資金分配団体POと実行団体担当者との個別の事業ロジックモデル作成の時間を設けています。団体側の負担感が少ないよう、事業成果を測定する意義や、そのメリットについて理解していただくよう心がけています。また、団体ごとの成果指標を測定するだけでなく、事業全体でのアウトカムの測定を行うことも重要という観点から、実行団体全体に依頼する「共通調査」の実施にも取り組みを始めています。これは今年度第二次募集に採択いただいた「若者の孤立孤独対策モデル形成事業」での実装を予定しており、FD側がアンケートフォームの作成やマニュアルの提供などを行うことで、実行団体の負担を減らしながら、データを根拠とした、説得力のある事業全体の成果報告書の作成を目指しています。</p> <p>もちろん①②③④⑤ともに、幹事団体・構成団体が連携して取り組むものであり、それぞれの強みがある領域だけを実施するものではありません。しかし、それぞれの強みをもつ領域を各団体がイニシアティブをとって実施することで、全体として実行団体のみなさまが充実した支援を受けられる体制を構築するよう取り組みます。</p> <p>【専門家との連携】 本事業において、評価指標の作成やプログラムの検証を行うにあたり、シングルマザーの心身の健康、自立支援に詳しい専門家との連携体制を構築します。(東北大学の 氏や聖カタリナ大学の 氏などを想定) また、本事業は全国事業を予定していますが、実行団体の審査や伴走において、地域における連携体制や個別の団体の状況の確認を重視します。そこで、シングルマザーズシスターフッドも加入する「シングルマザーサポート団体全国協議会」(理事長 氏)との連携体制を作り、各地域の特性や実情などについて助言・サポートを得ることを予定しています。</p>
<p>(3)想定されるリスクと管理体制</p>	<p>【多様な目線での事業運営(ジェンダーバランスなど)について】 ・ジェンダーバランスについてシングルマザーズシスターフッド(代表は女性)の役員の男女比は男性25%:女性75%であり、構成団体であるREADYFOR(代表は女性)の役職員の男女比は男性43.7%:女性56.3%となっており、やや女性が多いがバランスが取れています。</p> <p>【プログラムに参加する受益者の継続率の担保】 ・ひとり親の女性は心身の健康状態においてハイリスクな状態にあり、プログラムの継続には一定のサポートが必要です。幹事団体であるシングルマザーズシスターフッドは、シングルマザーの心身のセルフケアを支援する団体であり、プログラム継続の土台となる「心身の健康」の重要性とセルフケア推進について、実行団体に啓発していきます。それは実行団体担当者のバーニアアウトの予防にもつながると期待されます。</p> <p>【ガバナンス・コンプライアンスについて】 ・シングルマザーズシスターフッドは2021年4月に東京都から認証を受けており、理事に弁護士が1名在籍しています。 ・READYFORは社内弁護士を含む法務部を設置して上場会社に準拠したガバナンス体制を敷いています。</p> <p>【個人情報を含む情報管理の徹底について】 ・コンソーシアム構成団体であるREADYFORは、情報セキュリティマネジメントシステム(ISMS)の国際規格である「ISO/IEC 27001:2013」および国内規格「JIS Q 27001:2014」の認証を2021年9月に取得しています。本事業においても、国際規格に準拠した個人情報の取り扱いを徹底します。</p>

VI.関連する主な実績

(1)休眠預金以外の助成・補助金活用の有無				
①コロナウイルス感染症に係る事業				
本事業について、コロナウイルス感染症に係る助成金や寄付等を受け助成金等を分配している(予定も含む)	有	無✓	有の場合 その詳細	
本事業について、国又は地方公共団体から補助金又は貸付金(ふるさと納税を財源とする資金提供を含む)を受けていない。	無✓	※有の場合、選定の対象外となります(公募要領:助成方針参照)		
本事業以外の事業について、コロナウイルス感染症に係る助成金や寄付等を受け助成金等を分配している(予定も含む)	有✓	無	有の場合 その詳細	事業期間2023年4月～2024年3月にかかるものは下記 ・休眠預金活用事業「若者の「望まない孤独」支援モデル形成事業～「時間・距離・敷居」の壁を超える～」(READYFOR株式会社が構成団体として参画)
②-1その他、助成金等の分配の実績				
<p>【シングルマザーズシスターフッド】 マイクロソフト社との共同事業GSI-J(Global Skills Initiative-Japan)にて、ひとり親TECHエンバワメントプログラムの実施団体5団体に1団体120万円(合計600万円)を分配。教材、開催・広報・評価ツール、担当者研修を提供し、半年間のプログラム実施の伴走をおこなった。</p> <p>【READYFOR】 ・新型コロナウイルス感染症:感染拡大防止基金(2020年4月～) 助成団体数:165 助成金額:8億7249万1000円 ・休眠預金活用事業「コロナウイルス対応緊急支援」(2020年7月～) 助成団体数:26 助成金額:2億1249万5592円 ・新型コロナウイルス感染症:いのちとこころを守るSOS基金(2021年1月～) 助成団体数:34 助成金額:7292万2377円 ・休眠預金活用事業「深刻化する『コロナ学習格差』緊急支援事業」(2021年10月～) 助成団体数:17 助成金額:2億9750万円(※キッズドアとコンソーシアムで実施) ・休眠預金活用事業「長期化する若者の『コロナ失職』包括支援」(2022年3月～) 助成団体数:18 助成金額:3億3739万円(※育て上げネットとコンソーシアムで実施)</p>				
②-2前年度に助成した団体数	74団体		②-3前年度の助成総額	7億円
(2)事業に関連する調査研究、連携、マッチング、伴走支援の実績、事業事例等の実績				
<p>【シングルマザーズシスターフッド】 2021年より2年間にわたってトヨタ財団の研究助成「つながりがデザインする未来の社会システム」—ニューノーマル時代に再考する社会課題と新しい連帯に向けて—に採択され「地域を超えたピアサポートを実現するひとり親支援プログラムの開発 —「主体性」の回復から「新しい連帯」が実現する過程の検証」というテーマで、東北大学、松山大学、聖カタリナ大学、福岡県立大学の研究者とともに研究を進めている。ひとり親TECHエンバワメントプログラム3期生の実施にあたっては、北海道、山形、横須賀、静岡、岐阜の5団体の伴走支援をおこなった。</p> <p>【READYFOR】 クラウドファンディングサービスとして11年間で2万件以上のプロジェクト(累計支援額約280億円、支援者数120万人以上)の実績があり、そのなかで、当該の申請事業(シングルマザー自立支援)に関するプロジェクトを多数実施している。</p>				